

幼稚園から9年生まで、アメリカをはじめとする約30カ国、460名強の生徒が在籍する非宗教系の私立学校である。一クラス少人数制とし、基本は英語、日本語学習はすべての生徒が履修する。校外学習やスキー教室、キャンプなどの行事も多い。国際的な視野と主体的な思考力を持ち、国際社会の協調と発展、そして平和に貢献できる人材の育成をモットーとしながら、その校風は創立当時から変わらずにアットホーム。卒業生たちは母校を愛し、毎年6月の同窓会など交流も盛んだ。

創立者・松方種子(1917~1989年)は、実業家、松方正熊と美代子夫妻の三女で、父方の祖父松方正義は明治の元勳、姉ハルは元駐日米大使のライシャワー夫人である。幼い頃から外国人家庭教師の教えを受けアメリカ留学経験をもつ種子が、その頃の日本にはない、リベラルな環境の中に理想的な教育のあり方を見出したのは当然のことであろう。戦後帰国した種子は、1949年、子供たちを自由な雰囲気の中で、広い考えと思いやりのもとに自分で考え行動できる人間に成長させたいとして学級を開く。やがて、入学する生徒の数が増え国籍も多様化し、インターナショナルスクールへと発展した。当時この辺りは麻布西町と呼ばれ、それがスクールの名前につながっている。

校庭に入って目をひくのは、校舎のコンクリートの壁面に大きくプリントされた、松方ハウスの炉辺で種子校長を生徒たちが囲み教えるを仰ぐ光景だ。和やかで家庭的な雰囲気が、このスクールの象徴している。

現在も校舎の一部として使われている松方ハウスは、1921年、大正から昭和にかけて活躍したアメリカ人の建築家ウィリアム・メレル・ヴォーリズの設計により、種子の両親の自宅として建てられた。内部は改築が繰り返されているものの、重厚なオーク材の階段や扉、タイル張りの暖炉、数々の美しいディテールは当時の姿をとどめ、趣深い。東京都選定歴史的建造物に指定され、建物概要や当初の間取りが記載されたプレートが道路際に設置されている。麻布にとっても、このスクールは貴重な財産なのである。

(取材/高橋 光、田中亜紀 文/田中亜紀)



(上) 角にあるメディアセンターは、ガラス張り吹抜けの開放的な空間をもつ。読書好きな子供たちが多いという。
(右) 司書のオーストラリア人のジョン・コロノスキー氏。蔵書や資料検索のことなら、なんでも聞ける。



- 1 校長室。現校長はイギリス人のテレンス・クリスチャン氏。暖炉は設計当時のもので、昔は家族の音楽室に使われていた。
- 2 グレーの外壁に窓や玄関上のバーゴラ風の庇の白が映える松方ハウスの端正な外観に、道行く人もふと足をとどめる。内部は一般公開していない。
- 3 スタック仕上げの壁に施された模様は、松方家の頭文字Mをデザインしたものだ。
- 4 扉や欄間の美しいデザインが際立つエントランスホール。近年、通常では経済的に入学が困難な子供たちを迎え教育の機会を提供することを目的とした「アウトリーチ奨学金プログラム制度」を設けている。
- 5 上げ下げ窓の木とツマミの鉄の質感も味わい深い。
- 6 踊り場の窓からの光に満たされた階段ホール。緩やかな勾配、手ざわりのよい手すりなど、思わずのぼりたくなるような階段はヴォーリス建築の典型。なお、後の章「麻布の軌跡」にて、ヴォーリスの詳しい経歴などを述べているので、併せてお読みいただきたい。
- 7 階段のディテールにも、設計者のデザインセンスがうかがえる。
- 8 廊下には創立当時から学内外での学習やイベントの写真が飾られ、心なごむ雰囲気。

西町 インターナショナル Nishimachi International School

有栖川宮記念公園近く、仙台北上から北側に位置する元麻布二丁目の住宅地の一角に、60年の歴史をもつ西町インターナショナルスクールがある。クラシックな佇まいの洋館、松方ハウスが印象的ないっぽう、キャンパスはコンクリートの校舎がL字型に連なりモダンな雰囲気だ。



(左) 異なった国籍、文化背景をもつ子どもたちが違和感なく生活し成長する。
(下) 体育館の建物の壁面に、種子と生徒たちの炉辺のくつろぎのシーンが大きくプリントされている。創立60周年を記念して設置された。



麻布びと



佐野和夫さん (70)

「四つの時代を生き抜いた祖父のことを語り継いでいきます」

麻布十番商店街の喧騒を背に、新一の橋交差点を赤羽橋方向に渡ると左手一帯が「東麻布」。一見静かな住宅街。法務局近辺のため、司法書士、土地家屋調査士の看板を掲げた建物が目立つ。耳をすますと、家内工場の機械音も。軒先に季節の鉢植えを並べた家々、住民と気軽に声を掛け合う商店が連なる「麻布一すど通り」…。港区の中でも知る人ぞ知る、深いエリアかも知れない。そんな東麻布に、古くからお住まいの佐野和夫氏を訪ねた。ザ・AZABUでは過去に、祖父の故・佐野昭氏(彫刻家・工部美術学校卒業生)の残した文言を引用させていただいた(本紙3号)ご縁がある。

祖父の残した宝物と住まう日常

祖父が佐野昭という彫刻家でした。工部美術学校※1の彫刻学科第一回卒業生です。慶応元年生まれで、明治・大正・昭和を生きました。ちょうど昨年、明治美術学会で、本人についての研究論文をまとめてくれた方がいらっしゃいまして、大変詳しく書いてあります。※2 我が家の玄関にも作品であるライオンの像※3がありますけど、今残っている中でいちばんの代表作は、浜離宮にある銅像。酸性雨で青錆が出ちゃって、ちょっと心配ですけどね。他にも大きな作品は熊本やら福岡にもあったようですが、太平洋戦争中の金属供出なんかのために、なくなってしまったみたいです。工部美術学校では、お雇外国人教師としてイタリアから招いた彫刻家ラゲザに直接教わったようですね。私も先般、ラゲザの出身地シシリ島に行ってきましたけど、すごくきれいなところですね。ラゲザは今でも地元ではすごく有名人。町に銅像もあって、みんな知っていました。祖父にかわって、お墓参りもしました。日本女性として正式に外国人と結婚した第一号とも言われている、夫人お玉さんもいっしょに入っているらしいですね。もともとお玉さんは元麻布にある長玄寺に葬られていたから、分骨したのでしょうか。

佐野さんはひとつ、またひとつと、おじいさまにまつわる「お宝」の箱を開けてくださった。厚手の和紙に手書きで作成されたような明治時代の旅券、交友のあった著名な洋画家から船便で届いた絵葉書、国会議事堂の上棟式記念に配られた小銭入れ(その外蓋は、おじいさまが作られたと思しき国会議事堂の全景を写したレリーフが模してある)等々…。いずれも、資料館の展示ケースのガラス越しに見るべきもののように思える。

祖父・佐野昭は、工部美術学校を出た後、宮内省の方で、主に建築装飾に関わっていたようです。迎賓館赤坂離宮や国会議事堂の外装などにたずさわっていました。赤坂離宮はベルサイユ宮殿を模したものだから、細部までしっかり見ていらっしゃいということで、「官命により」フランスへ行き、1年ほど滞在していたらしいです。そこで、パリ万博の審査員もかねていたそうです。ここに当時の旅券がありますよ。写真も何もない字だけの旅券です。当時のことだから、水杯あけて行っていたらしいですよ。

白馬会※4でいっしょだった黒田清輝や久米桂一郎とは徹底的に仲が良かったみたいです。パリから何通も絵葉書が来ています。黒田清輝が祖父に「ロダン」を教えようとして送ってきたりしていました。

今の我が家は以前、祖父のアトリエだったらいいですね。大きな銅像の原型をつくるのに使っていたらしいです。太平洋戦争中、私の父は出兵しており、祖父、母、弟と私はここで東京大空襲に



遭いました。ちょうどこの場所から、増上寺の五重塔がメラメラ燃えているのが見えました。当時4.5歳だったぼくは、恐怖感よりも、「きれいだ」と思っていました。祖父と母は大変に危険を感じ、直後に、母の実家のある東松山方面に疎開しました。けれど、この近隣は運よく焼け残りました。当時は強制疎開と言って、立ち退かせた家をわざと倒して火災の延焼を防ぐような手立てをしていたらしいですけど、そのような防御線が近くにあったことの効果があったみたいですね。

幼年期に強烈な空襲のビジュアルを体験した佐野さんの少年時代は戦後の麻布地区復興と共に始まる。

戦後もなくは、学区の飯倉小学校が燃えてしまいましたので、麻布十番の方の南山小学校に通いました。思い出すのはやはり脱脂粉乳とコッペパンですね。バケツに入った脱脂粉乳…いやだったなあ…。麻布十番も焼けてしまったから、当時は生活用品がなかったですね。どこに行ってもなかったし、どこへ行っても並んでいました。

家族で彫刻家を継いだような者はいません。時代の変遷でいうと、昭和に入ると彫刻は需要がなくなってきたような気がします。お金がかかる、スポンサーがいる、ということで需要がなかったのでしょうか。

祖父は昭和30年、89歳になるまで生きました。最後まで「彫塑」を貫きました。「彫塑」とは本来「彫刻」(外から中へ向かって彫り刻んでいくもの)と「塑造」(粘土などで中心から外に向かって盛り上げていくもの)2つの言葉を併せたものですが、祖父は「彫塑」を後者の意味に用いていたようです。自分の戒名にも「彫塑」の二文字を使いました。

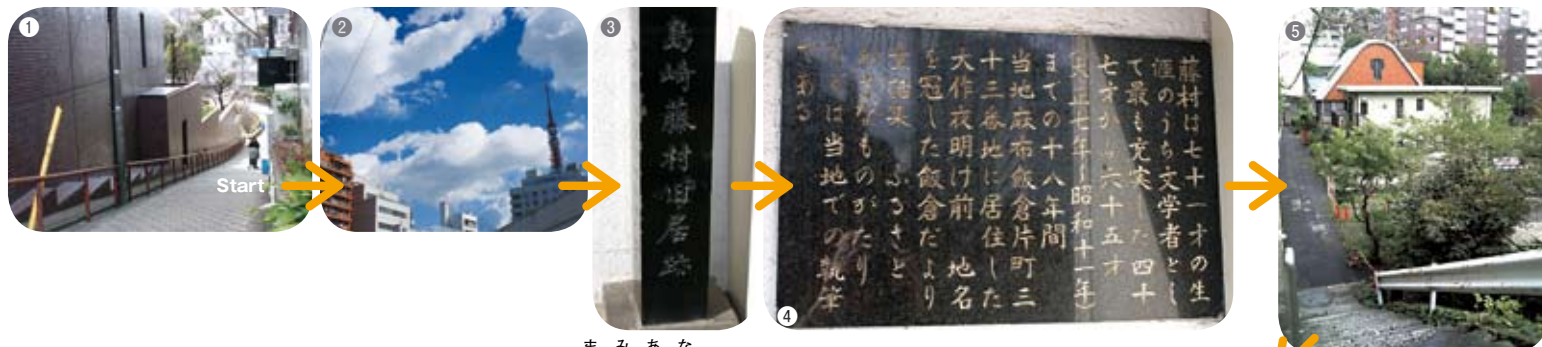
昨年、港区の広報紙で見て、あざぶ達人倶楽部を受講し、修了証をいただきました。「麻布びと」として、「佐野昭の孫」として、こういう話を語り継いでいきたいと思ひます。

「明治維新以降の急速な日本の近代化と西洋化」…歴史の教科書でよく目にするフレーズを職業美術家として生身で生き抜いたひとりの「彫刻家・佐野昭」その人を、「近く」に感じられるひとときを過ごした。

※1 1876(明治9)年に設立された日本で初めての官立の美術学校。
 ※2 明治美術学会「近代画説」第18号「佐野昭の彫刻・白馬会の彫刻をめぐる」吉田朝子
 ※3 佐野昭<獅子像>1923(大正12)年 ブロンズ 佐野和夫氏所蔵
 ※4 1896(明治29)年、黒田清輝、久米桂一郎らが中心となって立ち上げた洋風美術団体。

- ①祖父・昭氏が1900(明治33)年、官命による欧州出張の際、発行された旅券
- ②佐野昭<可真手命像>1894(明治27)年 浜離宮恩賜庭園 明治天皇の結婚式を記念して旧陸軍省が行った懸賞募集に当選した作品
- ③④⑤ 皇室で催された饗宴の際、祖父・昭氏に贈られた記念品「ボンボンニール」。番号順に、大正大礼大宴(大正4年)、皇太子(昭和天皇)ご成式祝賀(大正8年)、昭和天皇ご結婚25年祝典(昭和24年)
- ⑥おじいさまの「獅子像」、奥様に囲まれて…
- ⑦「獅子像」に記された作者名・制作年





坂のある景色と勾配を楽しむ麻布狸穴町

前回に引き続き麻布台から出発する“あざぶさんぽ”、今回は外務省飯倉公館前の通りを一步入った路地から始まります。① 通りとはずいぶん異なる雰囲気を目を奪われる急な下り坂、はやる気持ちを抑えながら、注意してゆっくりと下っていきます。勾配が緩やかになるあたりにひろがる空、② そこにはひっそりと「島崎藤村旧居跡」碑③があり、麻布の歴史と文学的な風情の残る場所です。大作「夜明け前」や童話集「ふるさと」などはこの地での執筆であるとの解説④もあります。子どもと歩けば藤村の児童文学の世界を感じられるかもしれません。(藤村の著書でも、この坂

の多い麻布の地での、不便ながらも情緒ある暮らしぶりが書かれています。)

藤村の碑の前には思わず下りてみたくなる急な階段があります。⑤ 徒歩ならここから東麻布方面に向かうのもよいのですが、今回は植木坂⑥手前右の住宅地へ続く路地に入ります。途中左側には、またまた目を引く階段、今度は花と緑が縁を飾る上り階段です。⑦ その階段上のつきあたりには、ブリヂストン美術館永坂分室、⑧ 右に進むと麻布永坂町の高級住宅街⑨へと続きますが、ここは左の植木坂を下り、先ほど通った場所まで戻って、右方向に進みます。⑩

ここから先は高台ならではの見晴らしのよい景色と開放感をしみながら軽快に歩きましょう。⑪

そして最後、鼠坂を一気に下り⑫ 狸穴公園に到着。⑬ 待っていました!とばかりに子どもは駆け出し遊び始めるのでした。

今回の“あざぶさんぽ”は距離が短いものの、坂道と階段を冒険気分楽しめるルートを紹介しました。坂道も下りなら景色や雰囲気を感じながら進めますよね。また車の通りも少ないのでぜひ一度通ってみてください。



(取材写真・文/鈴木敏江)



「外国人のお客さまには目を見て日本語で話せば、ホントに通じました。質の良いパンをつくりつづけています」
(パネテリア ダノイ:河野美千代さん)

子どもに生きていく力を親子で読んでみよう

KIDS' ハローワーク



幼稚園のときからの夢を仕事に



パンづくり体験の結果、美味しい特製パンが出来ました。「チョコクリームしぼりは固くて力がかったけど、楽しかった!」(大智くん)「河野さんのお話はいいねいとてもよくわかりました」(響ちゃん)

今回訪れたのはパン職人の河野美千代さん。西麻布4丁目、堀田坂下にたたずむパン屋さん「ダノイ」で日々休む暇なくお仕事されています。

☺ あこがれのパン屋さん訪問。センス良く陳列されたパンと清潔感あふれる厨房の雰囲気に思わず心おどるジュニア編集員の大智くんと響ちゃんです。

どんなお仕事をされていますか?

毎朝6時からパンを焼き始め、9時を過ぎるとお客さまへの販売が始まります。毎日20種類くらいのパンを焼きます。デパートに納めるパンの袋詰めなどもあり、忙しく午前が終わります。午後販売と翌日に焼くパンの材料の仕込みが同時進行。最後は後片付けです。大きな鉄板を洗ったり、粉汚れを掃除したりします。毎日すごくやりがいを感じています。

どうやってパン職人さんになったのですか?

幼稚園の頃からパン屋さんになることが夢でした。大学は農学部を選び、食品、栄養、発酵などを学びました。就職のとき、たまたまパンをつくる会社が募集していたので入社しました。体育会系の職場でしたが、やさしくきびしく、パンづくりを教えてくださいました。途中から「こう



いうパンをつくりたい」という自分のイメージが浮かんできました。そこで、その大きな会社は辞めて、小さめのところで修行することにしました。今のお店は3つめの職場です。行ったことはないけれど、フランスのパン、ドイツのパン、みんな好きです。素朴なパンが好きです。

毎日のお仕事の中でうれしいことは?

お客さんと話す機会のもてる職場なのでハッピーです。この辺りのかたは皆さん優しく、小さいことにイライラせずにしてくれます。時にはお待たせしてしまったり、パンのスライスに失敗しちゃったりすることもありますけど、いいわよって。体調管理は大事ですね。パンの仕上がりに気持ちも出ます。自分に元気がないときには発酵が悪くて、お客さまに指摘されることもあります。ホントにパンはわが子がみたいな思いで扱っています。

☺ 今日は子どもたちにパンづくりの一部を体験指導いただきありがとうございました。

「教えるの、自分も楽しかったです。パン教室の助手を経験したこともありますけど、教えている人の言葉から学ぶこともあります。教えているときに自分の小ささに気づくこともあります。全て勉強です」
会話の端々に河野さんの口から出るのは「毎日が勉強、今できることをやっていきたい、たのしくやらせてもらってます」という謙虚で前向きな言葉なのでした。

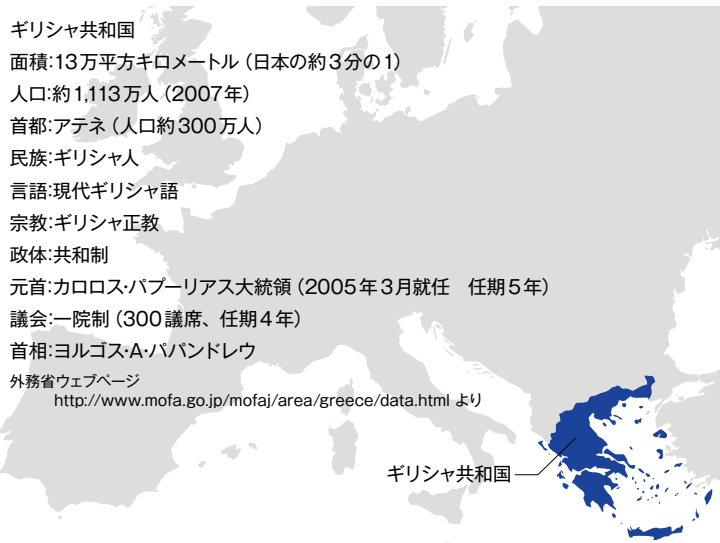


(取材/石山恒子、伊藤志織、大村公美子、大村響、鈴木敏江、鈴木大智文/大村公美子)



ギリシャ共和国
 面積:13万平方キロメートル(日本の約3分の1)
 人口:約1,113万人(2007年)
 首都:アテネ(人口約300万人)
 民族:ギリシャ人
 言語:現代ギリシャ語
 宗教:ギリシャ正教
 政体:共和制
 元首:カロロス・パプーリアス大統領(2005年3月就任 任期5年)
 議会:一院制(300議席、任期4年)
 首相:ヨルゴス・A・ババンドレウ
 外務省ウェブサイト
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/greece/data.html> より

取材協力/駐日ギリシャ大使館



麻布の"世界"から



Greece



ヨーロッパ文化のルーツ、偉大な文明と歴史、そして言葉のパワー



皆さんはギリシャの正式名称が「Hellenic Republic (ヘレニック・リパブリック)」であることをご存知だろうか?日本との国交を100年以上持ち、お馴染みの国という印象があるが、実は正式な国名を聞いたことがないという人も多いのではないかな。今回は知っているようで意外に知らないギリシャについて、ニコラウス・ツァマドス大使にお話をうかがった。

笑顔で執務室に迎え入れてくださった大使は、昨年10月に在日大使のポストに就任された。お父上も外交官であったため、人生の3/4をギリシャの外で過ごしてきたという国際派。今までに駐在した国も、フランス、ドイツ、イタリア、チュニジア、レバノンなど多国にわたり、6つの言語を操る。祖父も政治家で、ご本人も国際法の博士号まで持つというすばらしいバックグラウンドの持ち主だが、実は外交官でなかったらサッカーの選手になっていたというほどのサッカー好き。ギリシャではサッカーが人気で、大使は今年のワールドカップでのギリシャと日本、両国の活躍を楽しみにされている。

日本とギリシャは似たところが少ないという人が多いが、大使は必ずしもそう考えてはおられない。確かに物静かで礼儀正しく、消極的な日本人と比べると、ギリシャ人は陽気、積極的、議論好きと国民性は正反対に見える。しかし国土の80%が山に囲まれるギリシャと70%の日本、両国とも海に囲まれ海からの資源を尊び、長い歴史と固有の文化を持つ点など共通点も多い。国民性はその国の環境が大きく影響すると考える大使は、二国の相違点よりも共通点を多く感じているようだ。

但しギリシャ人が持つ言葉のパワーには特別な思いがある。ギリシャ語は他の言語に比べ語彙が豊富なことでも知られ、数々の言語に影響を及ぼしてきた。英語をはじめ多くの諸外国の言語にギリシャ語の語彙がそのまま用いられている。それを操ることのできるギリシャ人は、強力な言葉パワーを持つというわけだ。ここで大使は、ギリシャの著名な経済学者で、後に首相も歴任したクセノフォン・ゾロタス博士(Xenophon Zolotas)のスピーチの原稿をプリントアウトしてくださった。1950年代にギリシャ銀行の総裁だったゾロタス博士が、国際銀行で外国人の聴衆を前に行ったスピーチである。それはギリシャ語で書かれているのだが、同時に全てが英語でもある。つまり博士は、英語の語彙の中でギリシャ語を語源とするものがいかに多いかをこのスピーチで証明したのだ。難解な単語も数多くあるが、どれも確かに英語であり、英語辞書で見つけることができるものばかりだ。

言葉パワーを大切に考える大使は、日本人に注文がある。「日本は世界でも第2位の経済大国なのに、英語を話せない人が多すぎて大変損をしている。もし日本人が英語に堪能だったら、経済世界一も夢ではなかったはずだ。日本の国力または世界に対する影響力と、日本人の英語力が無関係でないと考える人は大使だけではないだろう。もちろん英語力が全てではないが、今後ますます境界線の無い世界が広がり、あらゆる意味でグローバル化が進む中、日本人の英語力の低さがマイナス要因のひとつとなることは間違いない。

駐日大使に就任してから毎日がエキサイティングな驚きとおっしゃるので、そのいくつかを紹介していただいた。まずミコノス島の姉妹島である与論島に行ったときに、その歓迎ぶりにとっても感激された。与論島にはギリシャ村まであって、皆がギリシャの旗を持って迎えてくれたそうだ。外国でこんなに盛大な歓迎を受けることができるのは大変な幸せと喜んでおられた。麻布の町でも毎週末に驚きを見つけている。おいしいものが多い麻布は大使にとって「Small Paris」。最近物価が高くなっているアテネあたりより、安くておいしいものが食べられる。日本に住んだら健康によい日本料理でやせるといわれていたが、逆に体重は増加気味と苦笑された。

最後にギリシャの今後について伺ってみた。取材当日はたまたまギリシャの財政状況についてのニュースが飛び交ったばかりだったが、大使によると「国の財政は困難に直面しているが、実は人々は貧しくない。人口の7割近くが自営業を営んでいるギリシャでは、個人が富をつかむのは難しくないし、実際に人々の生活は苦しくない」のだそうだ。少し前までは造船、海運が盛んだったが、今後はもっと観光に力を入れたいと意気込む。美しい海や古代遺跡を目当てに、さぞかし多くの日本人観光客が訪れるのだろうと思いきや、その数は年間5万人に留まる。どこの国にも負けない見所を数え切れないほど持っているにもかかわらず、ヨーロッパの近隣諸国に水をあけられているので、今後はギリシャの魅力をもっと知ってもらうことが、大使の目標のひとつと熱く語ってくださった。

(取材・文/加藤智恵)



- 1 明るく楽しいお人柄のツァマドス大使。2時間の取材はあっという間に過ぎた。
- 2 美しい海を表すブルーとギリシャ正教を表すクロスの組み合わせ。ヨーロッパ文化の基礎を築いた国のシンボルは、世界中から認知されている。
- 3 誰もが憧れるギリシャの白い壁と青い海。しかし日本人観光客数は近年意外に伸びていない。日本からの直行便がなくなってしまったのも理由のひとつだ。(写真はサントリー二島、ギリシャ政府観光局提供 www.visitgreece.jp)
- 4 与論島と姉妹島になっているミコノス島、約30年前に島を訪れた日本人が、観光地として成功している様子に関心し、与論島にも同じような環境をつくりたいと姉妹都市間協約を締結することを提案したという。(写真:ギリシャ政府観光局提供)
- 5 日本でも女性に人気のギリシャを代表するジュエリーブランド「フォリア」。
- 6 ぶどうからできるウーゾはギリシャを代表するリキュール。ウーゾ指二本分、水をさらに指二本分足して、必ず最後にアイスクューブを加えるのが正しい飲み方。近年はワインの輸出にも力を注いでいる。
- 7 ギリシャの農産物で最も有名なのがオリーブ。食材が豊富なギリシャ料理にも欠かせない。ギリシャの人々の生活にはなくてはならないものだ。

Azabu-nista

麻布で働く外国人レポート



タイ語教室パチャラー Teacher
Mori Pachara

考え方の違いは話し合いで解決。そのための言葉はとても大切。

タイの東北部の町で生まれ育った森パチャラーさんは、少女時代にテレビで初めて海を見て以来、海に対する憧れを抱いていました。そして学生時代にはタイのブラパー大学では水圏環境学を学び、その後留学生として来日。2年間日本語を学んだあと、筑波大学大学院及び東京水産大学大学院にて環境科学、海洋環境科学を研究しました。その後タイに帰国し、日系の消費材メーカーに勤務。総務事務に携わりながら水質アドバイザーとしても活躍していました。

その時に日本人の上司とタイ人の部下の間でコミュニケーションがスムーズに進まない場面に遭遇し、そのことをもどかしく感じたパチャラーさんがタイ人の部下に日本語を教えることになりました。この時の経験がきっかけとなって後にタイ語教師や通訳に携わることになるのですが、どの場合にも言葉の橋渡しだけでなくお互いの理解を促すために文化・慣習面での背景も伝えることを常に心がけています。

パチャラーさんが講師を務める“タイ語教室パチャラー”では、タイの子どもたちが言葉を習得する方法でカリキュラムが構成されているので、初心者の方でも身構えずに安心してレッスンに参加できます。地域の人たちが集う場所に教室を開きたいこと、また幼少の頃から



パチャラーさんの教室は、毎週日曜夜に開かれている。「サワディカ(こんにちは)」気さくに声をかけながら、丁寧な講義は評判も上々。日本とタイの友好関係にもっともっと協力していきたいと、熱い思いを語ってくれるパチャラーさん

ら南麻布にお住まいのご主人が慣れ親しんだ地域であることから東麻布を選びました。

日本の大学院在学中に知り合った日本人のご主人とは、タイに帰国後、3年間の遠距離恋愛を経てゴールイン。文化も考え方も違う日本での結婚生活はまだ驚くことや戸惑うことがたくさんありますが、ご主人とじっくり話し合って解決していくので夫婦喧嘩をしたことはありません。タイ料理ではパッタイ(タイ風やきそば)やソムタム(パパイヤサラダ)をつくるのが得意なパチャラーさんですが、ご主人のお母様に教わった肉じゃがやポテトサラダも得意料理のひとつで、ご主人が喜んでくれる料理を作りたいと思う奥さんの気持ちは万国共通です。

2年間南麻布に住んでいたこともあり、麻布周辺にはお気に入りの場所がたくさんあるそうです。麻布十番納涼まつりが大好きですが、ご主人と仲良く衆楽園で釣りを楽しむこともあり麻布地区にすっかりとけこんでいます。

なお掲載写真はご主人が撮影されたものをお借りしました。パチャラーさんのこぼれるような笑顔からご主人との素敵な関係が伝わってきます。

写真提供: 森 元太

(取材/高柳由紀子、福本綾子 森角香奈子 文/福本綾子)

見て楽しい、参加すればもっと楽しい「かかしまつり」

町内会と商店会が支える地域活動

地域社会のゆくえ

3



毎年、世相を反映したかかしの力作が集合します
写真: 2008年・第34回「かかしまつり」の様子



イラスト: 第一回「かかしまつり」ポスターより

東京タワーのすぐ下に「かかし」が並ぶのはなぜ?

「かかしまつり」は、東麻布一带に多く働いていた東北地方出身の方々に「故郷に思いをさせ、秋の爽りに感謝し、楽しんでもらえたら」と始めたそうです。

「かかし」は東麻布周辺の保育園、幼稚園、麻布小学校、学童クラブ、中には家族や職場それぞれで作られます。丹精込めた思い思いの「かかし」が持ち寄られて、「いーすと通り」にすわりと並びます。ステージでは審査につづいて、表彰式やイベントも盛り沢山です。また、この地域とゆかりの深い山形・花笠音頭のパレードや東京音頭も続きます。今では商店会の催物として、区からの協力もあるそうです。

この「かかしまつり」には、山形県舟形町から直送の新鮮な秋の野菜、芋煮、小国川の天然あゆの塩焼き、玉こんにゃく、その他にも多くの特産品が並び、大変な人気です。多くの方々の

支援、町内会、商店会の協力で、平成20年には「東京商店街グランプリ」に輝きました。

夏の相互体験学習交流会はいつごろから?なぜ始められたの?

「かかしまつり」実施の背景には、山形県舟形町との深い関わり合いがあります。昭和48年、社会問題として大気汚染、公害が大きく取り上げられていました。当時、飯倉小学校(現・麻布小に統合)のPTA会長だった佐藤克己さんを中心に、都会の子に自然豊かな田舎体験をさせた



左より:東麻布商店会・会長 水島氏、麻布森元町・会長 佐藤氏、副会長 権橋氏

いと、郷里の舟形町へと2泊3日・子どもたちの夏の体験学習会がスタートしました。

以来長年にわたって、舟形町との地域交流は続いています。麻布森元町会をはじめ地域の町会、商店会、飯倉小、六本木と麻布のロータリークラブ、教育委員会の協力により、一時中断したものの昭和56年より再開。現在は東麻布周辺の子どもたちを対象に、相互体験学習交流会に発展しています。そして、舟形小学校の子どもたちも、大都会東京を体験して帰って行きます。

双方でこれまでに、2000人以上の子どもたちが思い出を心に刻んでいると聞き、驚かされました。高齢化や老人問題・災害時や非常時の相互援助など、まだまだ舟形町と共に描く事業計画があります。希望は、一步一步具体的に進められているそうです。友好関係は未来につづく、そんな地域力に感動しました。

第36回「かかしまつり」開催:
平成22年10月1日・2日(第1金曜日・土曜日)予定
(取材・文/浅川一枝、高柳由紀子)



麻布南部坂教会前景

日本基督教団

麻布南部坂教会の軌跡

南麻布4・5・6

歴史的建造物

有栖川宮記念公園の緑に沿って南部坂を上るとまもなく屋根に十字架のある麻布南部坂教会が見えてくる。モミの木のある、さり気ない教会堂である。しかし、南部坂幼稚園が併設され賑やかな声がこぼれてくるし、日曜日に古いオルガンの伴奏で、礼拝堂から讃美歌が流れてくる。大変長い歴史のある教会堂、その建設の経過はどのような軌跡であったのか。

歴史文献から辿る麻布南部坂教会の教会堂建設の歩み

麻布南部坂教会は、大正4年(1915)麻布我善坊町(現麻布台1丁目)に伝道所として出発し、大正7年(1918)に「麻布區廣尾35-南部坂下」に移転、米国のドイツ改革派教会のヘンリー・ミラー宣教師の支援で木造瓦葺き、2階建て、約27坪の牧師館を兼ねた伝道所ができ、2年後に「麻布伝道教会」になった。※1 昭和2年(1927)になると西洋館建築の教会堂の建設の機運が生じ、遂に昭和8年(1933)教会堂が完成した。その際、11月19日ミラー夫人の奏楽に始まり、「・きよき住居(すまい)をつくりたてて・」と讃美歌171番(現191番)を歌い、「日本基督教麻布傳道教會献堂式」が執り行われた。※2 そして、麻布南部坂教会として今日に至っている。

その教会堂の設計は、「麻布南部坂教会七十年の歩み」のなかで「アメリカの建築家で、社会事業家にして、あの有名な白い小さな丸缶にグリーンのナースのマークの入った軟膏を扱った「メンソレータム製菓の事業にかかわる、ポーリス氏によると聞いている。」となっていた。※3 このポーリス氏とはどのような経歴の方か大変興味を惹かれると共に、その「歩み」の他の記述で設計者のことにふれられず、「ポーリス氏によると聞いている」との伝聞的書き方に着目した。

日本近代建築史に名を刻む建築家 ウィリアム・メレル・ヴォーリス その稀有な人生とやさしさに満ちた設計理念

ウィリアム・メレル・ヴォーリス(William Merrell Vories)は、明治13年(1880)10月アメリカで生まれ、明治38年(1905)来日、昭和39年(1964)5月一柳米来留として83年の生涯を閉じ、近江八幡にて市民葬で送られ、正五位勲三等瑞宝章が授けられている。

ヴォーリスは宣教活動に支援を惜しまなかった母、祖父等の家庭環境に育ち、コロラドカレッジに入学した。建築家になろうと夢見ていたが、青年伝道運動に参加しキリスト教伝道者になる決意をし、YMCA※4 の紹介で現滋賀県立八幡商業高校に英語教師として着任した。※5 明治40年(1907)教師とYMCA活

動との両立が難しく英語教師の職を失うが、まもなく京都YMCA会館の建築に関わることになる。明治43年(1908)一時帰米した彼はアメリカ人建築家を連れて戻り、本格的な建築事業に着手し、事業拡大への足がかりを作った。大正8年(1919)、旧播磨小野藩主で子爵※6 の一柳末徳の三女、満喜子(1884-1969)と結婚、夫人は教育事業に貢献し今日の近江兄弟社学園の基礎を築いた。その後、米国メンソレータム社から伝道活動資金にと日本での販売権を得、近江兄弟社を結成した。太平洋戦争が始まるとする昭和16年(1941)に、ヴォーリスは「米

国より来たりて留まることを自らの名前にもじり」※7 一柳米来留と改名し、日本に帰化した。

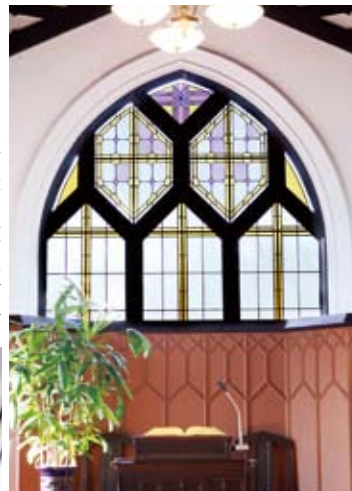
大正9年(1920)ヴォーリス建築事務所に組織替えし、段々所員も増え、建築設計監理が本格的に事業となった。ヴォーリスは、「人の魂と建築」に係わるミショナリー・アーキテクト(伝道する建築家)の務めを果たそうと云う志を持っていたようである。※8 その設計の基本は、建物の中で暮らす、また働く人たちのために、快適かつ便利で、健康的な環境を作ること十分な配慮を積み重ねていくもので、外からの見た目よりも、快適な居住空間を大切にすることにあった。※9

その作品は近江での個人住宅、大正5年(1916)明治学院大学礼拝堂、大正10年(1921)西町インターナショナルスクール(旧松方正熊邸)、その他大丸心斎橋店(大阪)、東洋英和女学院、山の上ホテル、豊郷小学校等など枚挙にいとまがない。ヴォーリスの生涯を通じて分かっている建築数だけでもスケッチ392、ジョブ1091、計1483件である。※10 やがて、建築事務所は一柳建築事務所となり、戦争で中断するも昭和21年(1946)(株)近江兄弟社の建築部門として復活、更に昭和36年(1961)以降、(株)一粒社ヴォーリス建築事務所として今日も活動している。

平成21年(2009)麻布南部坂教会の最近の耐震補強と修復に当たったのが、(株)一粒社ヴォーリス建築事務所であった。最初の教会堂の建築に関してお尋ねすると、当初の設計図面上にDEC-1・1930(昭和5年)の日付の教会堂南部坂側面図があり、ヴォーリスの設計であることが確認できた。

喧騒から離れ心癒される空間 光に溢れた礼拝堂

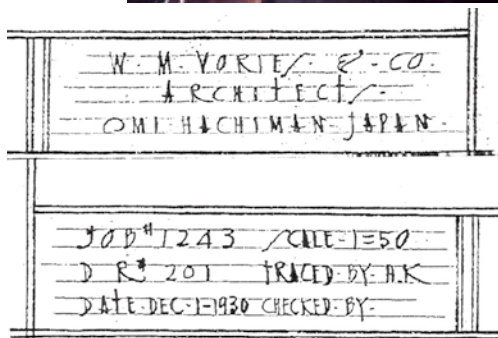
麻布南部坂教会は1階が集会室、幼稚園として使われ、傾斜のある南部坂沿いに接した建物2階部分に礼拝堂の入口がある。その堂内は、2階から3階がトラスで支えられたひとつの大きな空間で、講壇の後ろに麦の穂をデザインした大きなステインドグラスがある。そこから、また左右の窓から礼拝堂内に光に溢れ、使い込まれた素朴な長椅子に腰掛けると、そのまま温かな光に包まれるような感じで、心が自然と癒されるようなやわらかさに満ちた教会堂である。



今後、有栖川宮記念公園側の80年余の歴史を持つ麻布南部坂教会堂の周辺の景観が変わっていくかもしれないが、昭和時代初期の雰囲気伝える貴重な建造物として、ゆかしい佇まいのまま保存、継承されていくことを期待したい。



(上)礼拝堂のステインドグラス (下)有栖川宮記念公園から望む教会全景



麻布南部坂教会設計図一部(ヴォーリス建築事務所名と日付)(株)一粒社ヴォーリス建築事務所蔵

- ※1 麻布南部坂教会七十年の歩み編集委員会 日本基督教団麻布南部坂教会七十年の歩み p1-20
 - ※2 麻布南部坂教会七十年の歩み編集委員会 前掲書 p34-35
 - ※3 麻布南部坂教会七十年の歩み編集委員会 前掲書 p34-35
 - ※4 19世紀半ばに生まれた青年達によるキリスト教運動 Young Men's Christian Associationの略
 - ※5 (株)一粒社ヴォーリス建築事務所編 アメリカ人教師の日本体験記 p3-29 (株)一粒社ヴォーリス建築事務所 www.vories.co.jp
 - ※6 千田 稔著 華族総覧 p667 講談社現代新書
 - ※7 奥村直彦著 ヴォーリス評伝 p222(有)港の人
 - ※8 (株)一粒社ヴォーリス建築事務所編 伝道と建築 p9
 - ※9 (株)一粒社ヴォーリス建築事務所編 伝道と建築 p215-217
 - ※10 山形政昭編 ウィリアム・メレル・ヴォーリスの建築をめぐる研究 資料1993・2
- 取材協力:日本基督教団麻布南部坂教会 (株)一粒社ヴォーリス建築事務所 松波朋子 芹野与幸 文中敬称省略

Living in AZABU



“お花いっぱいの春を”

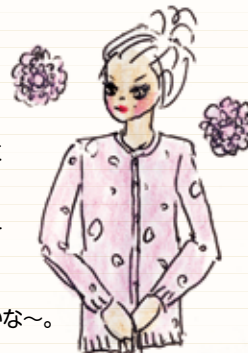
春がやって来る。
寒い冬のあとに、何てすてきな季節。

私のテーマカラーは、やっぱりPINK。
桜も一重から、八重、しだれと、街中を見て歩く。

麻布のあなたのView POINTはどこですか？

お友達のおうちには桜の木があって、プライベートお花見が出来る！！
何てうらやましい！！

近年tulipも(私のお花ごよみの中では、春のシンボリックなお花のひとつ)
新しい種類がたくさんふえて、
お花屋さんを通りかかると
思わず足をとめてしまう。



ことしは、ピンクのフワフワカーディガンに
パールビーズをつけて、いい感じになった。
ピンクスパンコールのお花のパーツをかけて
ブローチにした。

このコンビがちよっと自慢の春のおしゃれかな～。

あ～、♡あこがれのあの方と桜並木の下のお散歩なんて
絶対してみたい♡何てゴージャスな野心かしら♡

楽しい春をお過ごし下さいね。

P.S. 春の食卓も、いろいろと楽しみね。

(イラストレーション・文/湊 早苗)

麻布地区総合支所は、地域のさまざまな課題について、区民の皆さんの立場で、ともに考え、ともに解決に取り組んでまいります

麻布地区地域事業について

前号に引き続き今回は、麻布地区総合支所が独自に実施する12の地域事業のうち、「麻布未来写真館」「国際協働事業」「麻布フェスタ」の3事業をご紹介します。

※前号では、(1 災害時セーフティネット構築事業 / 2 安全・安心に特化した公園づくり / 3 子ども芸術ふれあい事業)をご紹介します。

4 麻布未来写真館

【事業化に至った課題認識】

麻布地区には、大名屋敷の面影を残す有栖川宮記念公園をはじめ、寺町や武家屋敷として歴史の物語や伝説がたくさんありますが、区民や訪れる人々には麻布の歴史や文化についてあまり知られていないのが現状です。

麻布地区の昔の写真などを通じ、「まち」の歴史や文化をより多くの人に知ってもらい、麻布地区への愛着を深めていただく必要があります。



【事業の内容】

区民、企業、大学等と協働で、麻布地区の昔の写真などを資料として収集します。また、定点写真を撮影し、麻布のまちの変化を保存します。将来的には、麻布地区総合支所内で、資料を閲覧できるようにします。

計画目標 (23年度末)	現状 (20年度)	事業計画				
		21年度	22年度	23年度	計	
資料室の設置	—	写真撮影 資料収集 等	写真撮影 資料収集 等	資料室の 設置 写真撮影 資料収集 等	資料室の 設置 写真撮影 資料収集 等	

5 国際協働事業

【事業化に至った課題認識】

麻布には多くの大使館があり、外国人登録者や外国人の来街者も多数います。そのため、日本人と外国人とのコミュニケーションの機会を増やし、地域に対する愛着を深めてもらうとともに、信頼関係を深めていく必要があります。

【事業の内容】

港区に住み、または活動する外国人と、麻布地区の地域情報を共有し、地域への愛着を深めてもらえるよう、地域のボランティア活動(環境美化活動パトロール等)の紹介や参加の呼びかけを行うとともに、総合支所の発行物を外国語に翻訳し、発行していきます。

計画目標 (23年度末)	現状 (20年度)	事業計画				
		21年度	22年度	23年度	計	
発行物の翻訳の充実 外国人の地域ボランティアへの参加	地域情報紙翻訳	充実実施	充実実施	充実実施	充実実施	



6 麻布フェスタ

【事業化に至った課題認識】

地域の人々の連帯感を高め、麻布の「地域力」を引き出していくためには、地域の人々や多様な団体等が協働により交流を深め、ふれあうことのできる「場」を整備していく必要があります。

【事業の内容】

毎年度それぞれテーマを設定し、啓発活動や、地域のふれあいを目的とするフェスタを開催します。

計画目標 (23年度末)	現状 (20年度)	事業計画				
		21年度	22年度	23年度	計	
フェスタ開催	フェスタ開催	フェスタ開催 1回	フェスタ開催 1回	フェスタ開催 1回	フェスタ開催 3回	

(次号に続く)



読者の皆さん、ご意見ください。

本紙記事の感想や取り上げてほしい情報など、何なりとお寄せください。より魅力的な紙面にするための参考にさせていただきます。



ご意見をお寄せいただいた方に麻布オリジナルグッズ「旧町名バンダナ」プレゼント!
「ザ・AZABU」では読者の皆様からのご意見・ご感想を募集しています。

ご住所・氏名・年齢・職業をご記入の上、下記までご応募ください。

●電話で.....03-5114-8812(月～金/午前8:30～午後5:00) ●ファックスで.....03-3583-3782
●郵送で.....〒106-8515 港区六本木 5-16-45 港区麻布地区総合支所「ザ・AZABU」編集室宛



港区麻布地区 総合支所だより

港都税事務所からの お知らせ

**4月から
固定資産税にかかる土地・家屋
の価格などがご覧になれます
(23区内)**

縦覧期間/
平成22年4月1日(木)から6月30日(水)
まで(土・日曜日・休日を除く)

縦覧時間/午前9時から午後5時まで

縦覧場所/
土地・家屋が所在する区にある都税事務所

縦覧できる方/
当区内に土地・家屋を所有する納税者の方

縦覧できる内容/
当区内で課税されている土地・家屋の価格など(縦覧帳簿)

※納税通知書は6月1日(火)に発送予定です。

東京都主税局では、本人へのなりすましなどにより、不正な目的で公簿の閲覧及び証明の申請を行うことを防止し、納税者の皆様の個人情報保護を図るために、縦覧時等の「本人確認」を厳格に行っております。詳しくは、東京都主税局のホームページをご覧ください。土地・家屋が所在する区にある各都税事務所にお問い合わせください。

お問い合わせ/港都税事務所
電話/03-5549-3800(代)

総合支所からの お知らせ

**平成22年度
港区民交通傷害保険加入の
申し込みは今月までです**

希望する人は、早めにお申し込みください。

各総合支所での申し込み/3月31日(水)まで

金融機関での申し込み/3月25日(木)まで

※期限を過ぎたあとの加入はできませんのでご注意ください。

※パンフレット・申込書は、各総合支所協働推進課地区政策係や区内金融機関にあります。

お問い合わせ/
麻布地区総合支所協働推進課地区政策係
電話/03-5114-8812

**区民参画組織
平成22年度「麻布を語る会」
分科会メンバーを追加募集します**

麻布地区総合支所では、麻布地区をより住みやすいまちにするため、地域情報の共有や、区の施策に対する論議や提言などに取り組む区民参画組織「麻布を語る会」を設置しています。関心のある方は是非ご参加ください。

対象/麻布地区在住・在勤・在学者、麻布地区のために活動したい人

麻布警察署からの お知らせ



**二輪車交通安全情報
交通事故連続減少～交通事故死者数
チャレンジ・アンダー 205**

バイク関与の交通死亡・重傷事故が増えています!

二輪車ライダーへ、事故防止アドバイス

- 交通ルール・マナーの厳守
スピードオーバー、すり抜け走行は絶対にしてはいけません。
- 安全運転、確実な安全確認の実施
ゆとりある運転と、前方はもちろん周囲の安全を常に確実にしましょう。
- ヘルメットのおごひもはしっかり締めましょう。
死亡事故の中でヘルメットの脱落が約4割です(平成21年中)。
- 胸部プロテクターの着用!
胸・腹部を強打し致命傷となった死亡事故が多発しています。



お問い合わせ/
麻布警察署交通課
電話/03-3479-0110

麻布消防署からの お知らせ



まもなく設置が義務となります!

平成22年4月1日からすべての住宅に設置が義務となります。住宅用火災警報器の設置義務化はもうすぐ。尊い命や財産を守るために住宅用火災警報器を設置しましょう。

**住宅用火災警報器等の悪質な
販売業者に注意してください**

消防職員のような服装で、「住宅用火災警報器の設置が義務化され、消防署の依頼でまわっている。」などと偽って販売するケースが発生しています。他にも、住宅用火災警報器と紛らわしいものを「今なら安くしておく。」などと言葉巧みに高額で販売するケースも発生していますので十分注意してください。

住宅用火災警報器に関する相談
住警器安心相談ダイヤル/

0120-282-119

(平日午前8時30分～午後7時)

メールによる相談/

jkinfo@tfd.metro.tokyo.jp

お問い合わせ/麻布消防署防災係

電話/03-3470-0119

麻布の区民参画……連載 ①

語り合い、ともに麻布のまちを住みよくしていきませんか

麻布地区総合支所では、平成18年に新たな総合支所制度を導入して以来、地域に住み、働き、学び、活動する多くの人々が区政に参加し、地区の課題の解決策や将来について、ともに議論し、協働によって目標を達成していく「参画」と「協働」の取組みに力を入れてきました。

現在では、区民参画組織「麻布を語る会」を中心に、区民の皆さんとともに下記のような活動を進めるまでになっています。

今後は、このような活動に対し、これまで関わり合いのなかった方々にも、参加募集のお知らせも兼ね、定期的に活動内容をお知らせしていきます。

●麻布を語る会「地域情報の発信」分科会
活動内容は?

地域情報紙「ザ・AZABU」の編集・企画を行っています。

今は何をやっているの?

3ヶ月後のvol.14発行に向け、取材等の準備をしています。

●麻布を語る会「麻布未来写真館」分科会
活動内容は?

将来に残し、伝えていべき麻布地区の今の写真撮影や古写真の収集をしています。

今は何をやっているの?

21年度撮影・収集した写真をもとにパネル展を開催しました。

●麻布を語る会「基本計画協働推進」分科会
活動内容は?

麻布地区の将来像「生活者優先の、安全で安心して快適に住み続けられる国際文化都市」の実現を目指す「麻布地区版計画書」の内容等について、着実に推進していきます。

今は何をやっているの?

21年度は「麻布地区版計画書」の内容等についての学習会を中心に行いました。22年度は、23年度の改定作業にむけて引き続き学習会や事業の進捗状況の確認、検証等のワークショップを行っていく予定です。

※各分科会とも見学等の参加自由です。参加してみたい、話を聞きたいなど、まずはお気軽に下記までお尋ねください。

お問い合わせ/
麻布地区総合支所協働推進課地区政策係
電話/03-5114-8812

分科会及び活動内容

●「麻布未来写真館」分科会

麻布の残したい場所・風景などの特定、写真撮影、資料収集

●「基本計画協働推進」分科会

麻布地区で策定した「麻布地区版計画書」の内容に関する学習会や論議、提言

※各分科会とも会議は原則平日の夜間月1回程度を予定しています。ただし、取材、写真撮影など昼間の活動もあります。

定員・募集人員/各10人程度(申込順)

申し込み方法/

住所・氏名・職業(学校名)・電話番号・希望する理由(字数・様式自由)を書いて、直接または郵送・ファックスで、4月12日(月・必着)までに、〒106-8515 港区六本木5-16-45 麻布地区総合支所協働推進課地区政策係へ。FAX/03-3583-3782

※会議の際、保育を希望する人はご相談ください。

※「地域情報の発信」分科会も随時メンバーを募集しています。

ザ・AZABU

●配布場所のご案内
六本木1丁目、六本木、広尾、麻布十番の各地下鉄の駅、ちいばす車内、みなと図書館、麻布図書サービスセンター、麻布福祉会館、西麻布福祉会館、飯倉福祉会館、本村福祉会館、大平台みなと荘、麻布区民センター、麻布地区総合支所等

●本紙掲載の記事・写真・イラストの無断転載を禁じます。

Chief 尾崎恭彦
Sub Chief 伊東みゆき

Staff 浅川一枝

石山恒子

伊藤志織

伊藤孝志

大村公美子

加藤智恵

Junior Staff 石山 茜

鈴木敏江

高橋 光

高柳由紀子

田中亜紀

西野さつき

橋本明子

石山 茜

福本綾子

満木葉子

湊 早苗

森 明

森角香奈子

山下良蔵

鈴木大智



港区は、みどりの保全とごみの減量に努めています。

編集後記

ギリシャ大使も仰っていましたが、麻布ってパリに似ていますよね。美味しいパン屋さんやカフェ、オシャレな人、犬がいっぱい暖かくなって犬も薄着になりましたね。桜が咲いてお散歩にいい季節ですが、楽しい思い出と犬のおとしものはどうぞお持ち帰りくださいませね。(満木葉子)

「みなとコール」は暮らしの疑問にまとめてお答えします!

区役所のサービスや施設案内、催し情報など、お気軽にお問い合わせください。
年中無休/午前7:00～午後11:00 ※英語での対応もいたします。

電話/03-5472-3710 FAX/03-5777-8752

Eメール/info@minato.call-center.jp

“Minato Call” information service
Minato call is a new city information service, available in English every day from 7 a.m. - 11 p.m.
Minato Call: Tel: 03-5472-3710; Fax: 03-5777-8752; E-mail: info@minato.call-center.jp